

患者様とご家族、処方医の方へのお知らせ

「キノロン系抗菌薬の処方内容解析と疑義照会における適正使用推進の研究」へのご協力依頼

目的

近年、世界では、抗菌薬が効きにくい耐性菌問題が上がっており、このままいけば、2050年には耐性菌で亡くなる患者が、がん患者を超えると予想されています。日本においては、他の国よりも耐性菌が多く、大分県は抗菌薬の使用量が全国の中でも多い結果になっています。

耐性菌問題の中で薬剤師は、抗菌薬の適正使用を担う立場にあります。薬剤師は、調剤の中で抗菌薬を扱っており、疑わしい点は疑義照会を通じて医師に確認を行っています。そこで、今年度、薬剤師が抗菌薬に関して、どのような内容で疑義照会を行っているのか現状の把握（処方内容の解析も含め）と、今後、適正使用をさらに推進するには、医療従事者として何が必要なのかを考えるために研究を行います。

なお、本研究は中津市立中津市民病院の倫理委員会での承認を得ています。

研究場所：中津市立中津市民病院 薬剤科

本研究の同意が得られた中津市内の医療機関（病院/保険薬局）

研究時期：平成30年11月1日より平成31年3月31日まで。

研究対象：キノロン系抗菌薬の処方された患者さんの処方箋が対象です。

研究方法：分析研究とし、本研究には記入式の調査表を用います。

性別・年齢・病名・検査値については、処方された抗菌薬がガイドラインに示されているものか否かを調査します。

疑義照会有無と処方医に疑義照会した結果を比較研究します。

なお、本研究では、患者名・医師名など個人情報扱いません。研究者も個人を特定することはできません。また、本研究は学会発表、論文発表することになりますが、その際も同じく、個人を特定することができる情報は記載されません。本研究で得たデータの全ては鍵のかかる部屋で保管します。電子媒体を保存する場合はパスワード機能の付いたUSBやパソコンで保管します。また、研究終了後5年後に紙媒体はシュレッダーで、電子媒体は完全破棄します。

この件に関して、ご自身のデータを使ってほしくないとのこと希望があれば、研究代表者（中津市立中津市民病院 薬剤科）の上ノ段 友里までお問い合わせ下さい。0979-22-2480（病院代表）：平日9時-17時。

2018年10月26日
中津市立中津市民病院 薬剤科
主任薬剤師
氏名 上ノ段 友里
(研究代表者)

(2018年9月18日改訂)